

5月 進路だより

さて、今回は、私立高校のお話です。私立高校は、学校法人が設立している学校をいいます。まず、学費ですが、授業料(授業料は保護者の方の収入によって、完全に無償化0円になります。)や授業料以外を公立高校と比べると、圧倒的に私立高校の方が高いです。しかし、阿倍野中学校の過去3年間の平均は、公立高校へ進学する人と、私立高校へ進学する人の割合が、ほぼ1:1です。金銭面では圧倒的に負担が大きいのに、それを上回る私立高校の魅力をあげてみます。

①施設が充実している。

プールや食堂やトイレといった基本的な設備は、公立高校に比べて、きれいな傾向にあります。また、芝生面のサッカーコートがあったり、屋上庭園があったり、公立にはない魅力的な施設を持つ学校が多いようです。

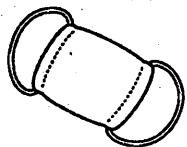
②学科の多様性

公立高校も、魅力的な学科が増えてきましたが、私立高校は、もっと細かく学科やコースを設定しているところが多いです。

たとえば、同じ普通科の中でも「特進コース」や「大学受験コース」など、大学受験のための指導をしてくれるコースを作り、「塾に行かなくても大学に合格する」という目標を掲げたコースが置かれていたり、「英語特進クラス」というコースでは、英語だけを特に頑張らせるコースなどがあります。ただ、こういったコースは、7時間目までの授業を行ったり、土曜日に授業を毎週行ったりするところが多く、部活動に制限があったりしますので、進学する場合は、部活動がどれぐらいできるのかもしっかり把握しておくのがよいでしょう。また、普通科だけでなく、美容に特化した「美容芸術コース」や、ファッションに特化した「ファッションビジネスコース」があったり、看護師さんへの近道となる「看護科」があったり、保育さんへの近道となる「幼児教育コース」があったり、調理師さんへの近道となる「調理科」や「パティシエコース」がある高校もあります。その他にも「福祉コース」「公務員コース」「デジタルゲーム開発コース」など、実にさまざまな学科やコースがあります。

③指定校推薦で大学に行ける。

多くの私立高校は、大学への指定校の推薦の枠を持っています。高校で良い成績を上げると、指定の大学に推薦してもらえ、大学に優先的に入学ができます。ただ、最近は、公立高校も指定校推薦の枠を増やしています(大阪市立ビジネスフロンティア高校は、大阪市立大学商学部にも最大6人までの枠を持っています。)ので、指定校推薦は私立高校だけのものではありませんが、その数は私立高校の方が圧倒的に多いようです。



④内部推薦で大学に進学できる。

私立大学の付属高校では、高校の成績によって、大学に内部進学が可能です。

東大阪市に、「近畿大学附属高等学校」という高校があります。「附属」ということばを聞くと、その高校の生徒は、みんな近畿大学に行くのかな?と思う人がいるかもしれませんが、実は、「近畿大学附属高校」には、次のような5つのコース(すべて普通科)があります。

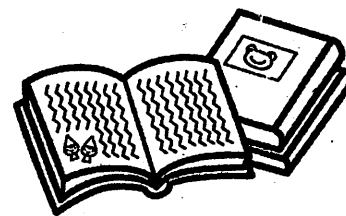
- (1) Supper 文理コース→京都大学や大阪大学を目指すコース
- (2) 特進文理コースⅠ→難関国公立大学合格を目指すコース
- (3) 特進文理コースⅡ→国公立大学を目指すコース
- (4) 英語特化コース→英語力を伸ばし、近畿大学の文系学部または、海外の大学を目指すコース
- (5) 進学コース→近畿大学へは、高校在学中の成績などのより、学科試験免除で進学できる特別推薦入試制度を活用して進学する。近畿大学学部で中核となる人材を育てる。

つまり、3年後に近畿大学へ進学したいのなら、明らかに(5)のコースに進学するのが近道と言えるでしょう。ただ、大学の学部は、高校の成績優秀者から希望を優先してもらえたり、高校での成績不良者は内部推薦してもらえないので、高校での学習をしっかりと頑張らないといけないうまでもありません。

また、近畿大学附属高校の場合は、(1)が一番難易度が高いです。

⑤全国大会へ行く高校が多い。

高校野球を見てもわかるように、競技人口の多い部活動では、全国大会に出場している高校は、私立高校の方が圧倒的に多いのが現状です。私立高校は、全国から生徒を集められる(大阪府立高校の場合は、保護者と本人が大阪府内に住民票があることが条件となっています。)という利点があります。



今回、私立高校の魅力をたくさん載せましたが、もちろん公立高校にもたくさんの魅力があります。自分にはどの高校がふさわしいのかを、いろいろな高校をしっかりと調べることで考えてください。しかし、公立高校も私立高校も義務教育ではありません。教科書も購入しなければなりません。経済的なことも考慮しなければいけないので、これから、保護者の方と充分話し合って決めてほしいと思います。